

# かがやく

## ハーモニーひたちなか

第20号  
2016.3発行  
編集/発行  
ハーモニーひたちなか  
ひたちなか市女性生活課

### 男女共同参画強調月間事業

## テーマ 「責任を 男女で分け合う 支え合う」

市では、男女共同参画社会の実現に向けて、市民及び事業者の関心と理解を深めるとともに、男女共同参画の推進に関する活動が積極的に実施されるよう、毎年11月を「男女共同参画強調月間」と定め、啓発事業を実施しています。

平成27年度は月間テーマを「責任を 男女で分け合う 支え合う」とし、男女共同参画を推進する団体のネットワークである「ハーモニーひたちなか」と協働で啓発事業を行いました。



▲春風亭鹿の子さん講演



▲ハーモニーひたちなかフォーラム会場

ハーモニーひたちなか  
フォーラム

日にち  
平成27年11月30日(日)  
ところ  
ワークプラザ勝田大会議室

地域や家庭、職場で実践できる男女共同参画を知っていただくとうと、「ハーモニーひたちなかフォーラム」(主催ハーモニーひたちなか、市)が開かれました。

フォーラムでは、男女共同参画に関する作品及び男女共同参画推進事業所の表彰が行われました。それに続いて講演と落語では、落語家の春風亭鹿の子さんを迎え、子育てをしていますが、仕事を続けることが出来、家庭でも明るく楽しく過ごす秘訣をお話いただきました。



# 「私らしいワーク・ライフ・バランス」

講演 & 落語

講師 春風亭鹿の子さん



春風亭鹿の子さんは、688 人いる落語家の中の 10 人しかいない女性落語家の一人です。なかでも女性の真打は 6 人しかいないそうです。

下町育ちで、小さいころから演芸場などへ足を運び、「ひ」と「し」の発音が区別できないという江戸前落語を聞いて、ここなら自身の発音コンプレックスがなくなるのではないかという軽い気持ちで落語界に入門しました。しかし、入ってみたらそこは全くの男性社会でした。下働きで苦勞しましたが、二つ目時代の 30 代後半で普通の会社員と結婚し女兒を出産しました。その後は高齢出産で体もボロボロなうえ、頼る親もなく、思うようにならない育児

に、鬱々とした日々を送ったそうです。ところがある時、夫に泣きながら訴えたところ、子育てに協力してくれるようになり、イクメンに変身しました。今では笑いが絶えない家庭になったそうです。パパが抱っこひもで前に子どもを抱っこしている姿はカッコいいと思うと話されました。

「イクメンにうまく育てる妻の知恵」をはじめいくつかの男女共同参画川柳も披露され、最後は高座で「かっぼれ」を踊っていただけました。

男女が協力することによって、みんなが生き生きと暮らしやすくなると感じた講演会でした。

## 春風亭鹿の子さんプロフィール

春風亭柳昇師匠に入門。2010 年に真打昇進。落語家として寄席などで活躍する一方ワーク・ライフ・バランスなどをテーマに、男女共同参画に関する講演を行っています。

## 男女共同参画に関する作品表彰

一人ひとりが個性や能力を発揮できる社会をイメージした 564 作品の応募があり、その中から次の 6 名の方の作品が入賞しました。最優秀作品は次年度の男女共同参画強調月間のテーマとして啓発に活用します。

<最優秀作>「あなたとわたし 共につくろう 輝く未来」内藤 絹さん

<優秀作> 「つくろうよ 誰もが輝く すてきな未来」 益子智美さん

「思いやる 男女の絆 つなぐ街」 藤 洋子さん

<佳作> 「みとめ合おう たがいの考え 男女とも」岡田夢萌さん

「僕が頑張る 私も頑張る 力を合わせて 築く未来」澤畑晴輝さん

「できないと きめつけないで 性別で みんな同じ 人間なんだ」柴 琳音さん



## 男女共同参画推進事業所表彰

男女が共に働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる次の 2 事業所が表彰されました。(50 音順)

<株式会社 神原鉄工所> (大平)

女性社員の職域拡大に努めています。また一人ひとりにあった労働条件を提案し、安心して働きやすい環境を整備しています。

<清水ノーツル 株式会社> (八幡町)

子どもが病気の際には、看護のための休暇をとりやすいような体制を整えています。また金曜日をノー残業デーとするなど、ワーク・ライフ・バランスを推進しています。



# ハーモニーフェスタ 2015 を開催！

日にち 平成 27年 10月 31日 (土) ところ 市総合体育館サブアリーナ

会場では男女共同参画についてのアンケートやパネル展示を行い、写真展、スタンプラリー、紙芝居、工作など楽しいイベントも行われました。また、ミニステージではハーモニー音楽会、妖怪ウォッチ体操や読み聞かせなどが行われ、幅広い世代の皆さんへ男女共同参画についての意識啓発になりました。



ミニステージではマンドリンの演奏が行われ、心地良い音色が会場いっぱいに広がりました。他にも様々な催しが行われ、子どもから大人まで楽しめるステージになりました。

イベントの様子

男女共同参画に関するアンケートの他に工作や紙芝居などが行われました。工作に参加した来場者は、出来上がった作品を手手に満足そうにしています。



生活クラブ生協まち・ひたちなかアンケート【こんなまちに住みたい】では、「親子で遊べるような所が欲しい」などの声がありました。



## ハーモニーひたちなか写真展



◇ハーモニーフェスタ 2015 会場  
◇市民交流センターコミュニティーギャラリー (平成 27年 11月 11日～16日)



ハーモニー写真展は家庭、職場、地域などで、性別にこだわることなくいきいきと活動する方の写真を募集しました。たくさんの来場者に見ていただき、それぞれの写真に応援メッセージを多数いただきました。



応援メッセージの中から・・・

- ・生後1ヵ月目の孫と見つめあう、うれしそうな二人
- ・たくさんミルクを飲んで大きくなってね
- ・人生初の育じいがんばって！
- ・おじいちゃん心のおアシスですね
- ・女性現場監督・広がる活躍の場ですね
- ・女性も活躍してステキです！



## 素敵な暮らし方 ～シリーズわたしのワーク・ライフ・バランス～ ②

現在、男女の垣根を越えて生き生きと働いている女性が多く見られます。今回はスマイルあおぞらバスの運転手として活躍されている大平かよ子さんへインタビューを行いました。

Q この仕事を選んだ理由は何ですか。

A とにかく運転が好きで、かっこいい女性運転手の先輩の姿に憧れて選びました。その後夢中で教習所に通って6年前にこの仕事に就きました。

Q 男性の仕事というイメージがありますが、どう思われますか。

A 私はそんなことは考えませんでした。仕事に就いてから、体力の差など男女の違いも感じましたが、仕事の基本は同じだと思います。

Q 仕事の中で男女の差を感じたことはありますか。

A ありません。ここは同一労働、同一賃金です。この営業所は、運転手76名中女性は3名ですが、子育て支援などについて会社側も積極的に就業規則の整備を進めていますので安心して働けます。

Q 仕事をするうえで、気をつけていることはありますか。

A お客様は年配の方が多いため急ブレーキをかけないこと、明るい雰囲気を作ることなどを心がけています。生活では疲れを翌日に持ち越さないように気をつけています。

Q これからも仕事を続けますか。

A 61才の定年までがんばります。私はこの仕事を天職だと思っています。

Q ご趣味は。

A ドライブです。休日に那須あたりまでは走ります。自然に癒され美味しいものを食べる時が最高ですね。



<感想>うらやましい、そしてカッコいい…そんな印象が残るインタビューでした。



### 男女共同参画講座

#### 「防災講座

#### ～女性も参加する防災～」



講座はHUGカード(※)を使って、災害時の避難所で予想される問題や状況に対応していくものでした。

このゲームは5・6名の班に分かれて行い、各班のテーブルには避難所の敷地と建物の見取り図が用意され、防災士が付きましました。

始めに設定された地震や天候の情報や日時が告げられ、指定避難所である小学校に集まってくる人や物資、状況にどう対応するかを考えます。

「〇〇さん△才自宅半壊、車で子供2人と共に避難。どこに案内しますか」2・3分置きに避難者カードが渡されます。中には高齢者も負傷者も動物もいます。「トイレが汚物で溢れました。どうしますか」など次々にカードが読まれます。

日 ち 平成28年1月19日(火)

と ころ 市文化会館 大会議室

アドバイザー NPO法人茨城県防災士ネットワーク

迷う時間は余りありません。即時対応が迫られます。「そこまで」と終了の声がかかるまであっという間でした。

各班の体験をまとめた発表は、自分達の班とは違う考え方を確認できました。講座終了後も皆興奮冷めやらぬ様子で「色々な気づきを貰えた。もっと多くの人に体験してもらいたい。地域に伝えたい」と話していました。「正解はありません。一人ひとりが防災について考える事が大切なのです」と防災士。大切な人、物を守りたい心は誰も同じです。災害時の行動を意識でき、眼差しに芯の入る体験となりました。

※HUGカードとは、避難所(H)、運営(U)、ゲーム(G)に使用するカードで、避難所で起こりうる状況が書かれたカードです。



春は、出会いと別れの季節。気まづいまま別れた友を偶然見かけた。何でも話し合い、笑いあった友の声や顔を思い出した。自分から心開き、連絡してみよう。時間はかかっても「話せてよかったね」と共有の時間を分かち合いたい。古くからの友情も新しい友情も、わが人生に春を呼ぶのは私自身なのだと思ふから。

(K・M)

編集後記